

(様式1)

令和5年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立豎川中学校
校長名	織部 明広

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<p>○第1学年は、全国平均正答率より 国語総合が 3.9P 社会総合 3.6P 英語総合 4.9P 上回っている。</p> <p>○第2学年は、全国平均正答率より 国語総合 5P、社会総合 5.4P 数学総合 17.2P、理科総合 4.6P 英語総合 8.2P 上回っている。全教科で全国平均正答率を上回っている。</p> <p>特に、第2学年の数学の経年変化での全国平均正答率との比較より、数学が昨年度より、 6.6P (全国平均正答率より +17.2P) 上回っている。</p> <p>○第3学年は、全国平均正答率より 国語総合 6.8P、数学総合 10.7P、英語総合 8.1P 上回っている。特に、国語、数学、英語は全国平均正答率を 5P 以上も上回っている。</p> <p>また、経年変化の伸び率も国語と英語は 2P 程伸びている。</p>	<p>●第1学年は、理科総合については、-0.2P 全国平均正答率を下回った。今後、<u>生命・地球の領域で単元末のやり直し、振り返りシートを活用し正答率を上げる。そして知識・技能の観点の 0.6P 差の全国平均正答率 63.6P に引き上げていく。</u>また、<u>E・D層 36.3%をC層に 10名引き上げ 24%にしていく。</u></p> <p>●第2学年は、<u>理科</u>の観点別正答率では、知識・技能の問題で、3P 全国平均正答率より上回っているが、他観点と全国平均正答率 3P 以上の差がみられる。そのため、<u>単元末テストのやり直し、振り返りシートを行いセキツイ動物、火山の単元で全国平均正答値に引き上げ、【知識・技能】の観点別正答率を全国平均正答率より 5P 上げていく。</u>また、<u>C層に 5名引き上げ、D層 32.7%をD層 20%台に止める。</u></p> <p>●第3学年は、理科総合では全国平均正答率を上回っているが、<u>【知識・技能】及び【主体的に学習に取り組む態度】</u>の観点では、全国平均正答率を僅差であるが下回っている。特に<u>電流の単元、天気図の単元</u>の内容が理解できていない。そのため小テスト、単元末テストによる復習問題を中心に取り組む【知識・技能】観点の定着を図る。また、社会についても、<u>歴史領域における江戸時代を代表する文化の単元</u>での【知識・技能】の観点が他の領域、観点より劣るため、振り返りの徹底し単元末、領域テストを実施し短答、記述式の問題に対応する。</p>

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<p>【学習習慣・意欲】についての設問で、</p> <p>○全学年で、「学校の学習の予習や復習をしていますか」については、<u>全国平均肯定率を第1年で14.1P、第2年0.8P、第3年8.3P上回っている。</u>この結果は、本校での取組の家庭学習帳のパーフェクト賞等の取組の成果ともいえる。</p> <p>○第1年で設問「1ヶ月何冊ぐらい本を読みますか？」の質問に1冊以上との回答した生徒が全学年全国平均より10P上回っている。今後のこのことは、読解力の向上につながっていく。</p> <p>○第1学年では、「テストでの間違いをやり直ししていますか。」の質問で、全国平均より(70.4%)<u>0.4P上回る回答であった。</u></p> <p>○「<u>タブレット端末やパソコンを使って学習すると分かりやすい</u>」の質問で、第1年86.9%、第2年76.5%、第3年80.9%の肯定的回答を得た。この結果は、GIGAスクール構想が着実に成果を上げていることになる。</p> <p>【自己肯定感】についての設問</p> <p>○第1・3学年では、設問「夢中になった勉強が面白いと思った、やる気が出たと記憶に残った授業はありますか」の質問では、全国平均より第1年(71.5%)<u>4.7%</u>、第3年(70.5%)<u>10.3%</u>上回る回答を得た。</p>	<p>【学習習慣・意欲】についての設問で、</p> <p>●第2・3学年では、「テストでまちがえた問題は、やり直しますか」の質問では、全国平均肯定率回答より第2年生は、10%、第3年生は、5.5%低い。<u>振り返りテスト、単元末テストでの取組を行い、全国平均肯定率を上げ達成感を味わわせる。</u></p> <p>【自己肯定感】についての設問で、</p> <p>●「家の人は、あなたが努力してがんばったとき、それをほめてくれますか、認めてくれますか」の質問に第1学年は、3.5%、第3学年は、5%全国平均肯定率を上回っているのに対して、第2学年だけ、全国平均肯定率を2.4%下回っている。学年、学校だより等で、学習習慣の定着に向けた家庭学習帳の提出の際に、<u>保護者へ点検とコメントの記載を呼びかけ、家族の支えにより自己肯定感を上げていく。</u></p>

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<p>○第2・3年生の英語では、少人数制習熟度別クラスによる上位層と中間層、中間層と下位層との学び合い活動により英語においては、「主体的に学習に取り組む態度」の観点において、<u>全国平均正答率を12.7P～13.6P上回っている。</u></p> <p>○数学の全国学力調査の結果から【思考・判断・表現】観点6.6P <u>全国平均正答率を上回っている。</u></p> <p>○国語の全国学力調査の結果より【知識・技能】観点4.9P、【思考・判断・表現】観点5P <u>国平均</u></p>	<p>●第1学年理科では、<u>校内前期中間調査結果からA・B層40%、D層40%あり、区学力調査のA・B層36.4%、D層46.3%であった。</u>区学力調査結果と同様の2極化傾向にある。</p> <p>また、校内前期中間調査結果からA・B層51%、D・E層39%であった。区学力調査結果もA・B層43.1%、D・E層40.9%で区学力調査と校内定期調査のD・E層を<u>やり直しテスト等による復習を通して、30%台にしていく。</u></p> <p>●国語の全国学力調査結果より、【知識・技能】</p>

<p>正答率を上回っている。</p> <p>○英語の全国学力調査の結果より【知識・技能】観点 10.1P、【思考・判断・表現】観点 8.9P 国平均正答率を上回っている。</p> <p>また、授業では、全学年においては、タブレット端末のロイロノート等、ICT機器の有効活用による分かり安い授業、話し合い活動により、区学力調査全学年の【思考・判断・表現】の観点別正答率が全国平均より上回っている。特に、第2・3学年では経年変化で9P程上回っている。</p>	<p>の観点で歴史的仮名遣いに直して読む問いについて、全国平均正答率より 8.5P 下回った。そこで、3.1%の無回答率を振り返りテスト、単元末テスト等のやり直しテストを実施し、無回答率を0%に近づけていく。</p> <p>●数学の全国学力調査結果より、【知識・技能】の観点で 2.6P で全国平均正答率より下回った。特に、累積度数の意味を理解しているかの問いでは、全国平均回答率より、26.3P 下回った。この結果から、区学力調査結果と全国学力調査結果の違いを分析し、振り返りテスト、単元末テストのやり直しを行いこの単元の【知識・技能】の向上を図る。</p> <p>●全学年対象に、学習習慣の定着に向けて、<u>教員の働きかけと表彰等で家庭学習ノートの提出率を90%に上げていく。</u></p>
--	---

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 各種コンテスト並びに検定受検への学校全体での組織的取組。

年間を通して、漢字・数学・英文・新聞・地理コンテストの5つのコンテストを行う。教科を越えて、学校として事前学習を行う。また、**第3学年**では、漢字・数学・英語検定を推奨し3検定3級以上のトリプル3合格者を10名以上目指す取組を行う。優秀者を表彰し昨年度からの成長を伝えていくことで学習意欲の向上に努めていく。コンテストの期間だけでなく、日頃から学力が定着するように各教科の授業の中で定期的に振り返り学習を行っていく。

(2) 教員の授業力向上に向けての取組

管理職による定期的な授業観察による指導助言を実施する。また、年2回の教員同士が授業を見合う互見週間をもうけ2教科以上の授業を参観し、良かった点、工夫が必要な点について参観レポートをもとに意見交流の場を設け授業改善に役立てていく。さらに、区外の指導教諭の模範授業の報告会や職員会議後のミニ研修で指導の工夫・評価・評定について管理職より資料提示し、研修を深め教員の授業力と研修意欲を高めていく。

(3) 本年度の校内研修テーマ「個別最適化な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実のテーマに基づいて、個別最適化学習・特別支援・道徳に関わる研修に取り組んでいく。

生徒一人一人の特性や学習進度・到達度に応じた指導方法や教材研究に努める。そのために、生徒の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じた探求活動における課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現を行う。そして生徒一人一人に応じた学習活動、学習課題に取り組む機会を提供し、生徒自身の学習が最適となる力（調整する力＝ねばり強さ）を育てていく。その結果として、**第3学年理科**で、「主体的に学習に取り組む態度」の観点別平均正答率を2P引き上げ全国平均正答率値に到達させる。

3 「令和5年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

◇**第1学年は、理科総合**については、**-0.2P**全国平均正答率を下回った。今後、**生命・地球の領域で単元末のやり直し、振り返りシートを活用し正答率を上げる。そして「知識・技能」の観点の2P以上向上させ、全国平均正答率64.2Pを上回っていく。また、E・D層36.3%をC層に10名引き上げ29%にしていく。**

◇**第2学年は、理科**の観点別正答率では、**知識・技能の問題で、3P**全国平均正答率より上回っているが、**単元末テストのやり直し、振り返りシートを行い「生命の領域」で全国平均正答値に引き上げ、知識・技能の観点別正答率を全国平均正答率より5P上げていく。また、C層に5名引き上げ、D層32.7%をD層20%台に止める。**

◇**第3学年は、理科総合**では全国平均正答率を上回っているが、「**知識・技能**」の観点では**1P以上**全国平均正答率を引き上げていく。また、「**主体的に学習に取り組む態度**」の観点でも、全国平均正答率を**2P以上**引き上げていく。そのために、**地球の領域、選択形式**における小テスト、**単元末テスト**による復習問題を中心に取り組み「**知識・理解**」、「**主体的に学習に取り組む態度**」の観点別学力の向上を図る。同時に、**E層を0%にしてDE層からC層に5人引き上げD層を30%台にする。社会**についても、「**知識・理解**」「**主体的に学習に取り組む態度**」の観点について全国平均正答率より**2P以上**向上させる。また、**E層を0にし、D層からC層に5人引き上げD層を20%台にする。**そのために、**地理領域、「知識・理解」の観点**における**単元末、領域テスト**を実施し**短答、記述式の問題への振り返りテスト等の復習問題**に取り組ませる。